

I 国立妙高青少年自然の家について



1 国立妙高青少年自然の家は…

青少年に対し、日頃の身近な場所では経験することのできない、心身の発達に必要な体験を、自然豊かな環境の中で提供することを通して、次代を担う、心豊かでたくましい青少年の育成を図ることを目的とした教育施設です。

2 理念

国立妙高青少年自然の家（以下自然の家）では、次のような理念を掲げて、上記の目的の達成に努めています。

- (1) 自然に親しみ自然を大切に作る心や、自然や美しいもの、崇高なものに感動する心など、柔らかな感性を培う。
- (2) 健康増進や体力向上の実践力を高める。
- (3) 自立心や協調性を育み、思いやりの心、命や人権を尊重する心、ボランティア精神など豊かな心を培う。
- (4) 規範意識や責任感等の社会性を育む。
- (5) 相互理解を深め、望ましい人間関係をつくる能力を養う。
- (6) 基本的生活習慣の形成を図る。

3 施設の特徴

◆立地条件

当自然の家は、妙高戸隠連山国立公園内の妙高山（2,454m）の山麓（約580m）の大自然の中に位置しています。

妙高山は、施設の西側に堂々たる雄姿を見せており、その美しい景観は日本百名山の一つに数えられています。また、別名「越後富士」とも呼ばれ、多くの人に親しまれるとともに、利用者の心をひきつけています。

◆自然条件

当自然の家が所在する新潟県妙高市は、我が国有数の豪雪地域として知られており、例年2月から3月にかけて積雪が3m程度を記録しています。そのため、4月中旬に遅い春が訪れ、季節風のおさまりとともに、川の水量も雪どけにより日ごとに増し、長く厳しい冬の終わりを告げます。

3月下旬にはスキーシーズンが終わり、色鮮やかな草花の芽吹きが始まって、山裾から次第に緑に包まれます。夏季でも朝夕は涼しく、過ごしやすく、秋には妙高山頂から鮮やかな紅葉で染まり、四季折々の自然に触れることができます。

◆所章



この所章シンボルは、MYOKOのMの小文字mをベースに、左から妙高山（2,454m）、火打山（2,462m）そして焼山（2,400m）の三山をあらわし、子どもたちがのびのびと力強く育つことを願ったものです。

◆マスコット



(mimiちゃん mimiくん)

妙高の地を代表する野生動物である「野うさぎ」をマスコットにしました。施設周辺では、四季を通して見かけることができます。